



学校だより

12月号

2014年11月28日
横浜市立中村小学校

学校教育目標 **ともに生きる社会をつくる子どもを育てます**

- ・相手の話を聞き、粘り強くやりとげられるようにします。(知)
- ・互いを認め合い、高め合えるようにします。(徳)
- ・自他の生命を大切に、健やかな心と体を育みます。(体)
- ・よいこと悪いことを判断し、進んで行動できるようにします。(公)
- ・様々な人とのコミュニケーションを通して、視野を広げられるようにします。(開)

絶妙な間を身につけたい。

校長 中川 和幸

大相撲九州場所は、白鵬が優勝して大鵬の持つ最多優勝記録の32回に並びました。200キロ近い人のぶつかり合いは見る人を圧倒しますが、私が相撲を見るときにいつも気になっているのは、力士ではなく、**呼び出し**です。

以前、相撲好きな義父とともに国技館に行ったときも、力士の大きさやぶつかる迫力にも驚いたのですが、さりげなく無駄がなく、しかも的確な呼び出しの動きに見入ってしまいました。時間一杯の立会い前にさっと力士にタオルを差し出し、力士が仕切り線に向かうとほうきで土俵際を掃く動きは、何とも**絶妙な間**です。**タイミング、距離感が絶妙**といってもよいかもしれません。力士たちの最高のパフォーマンスを影から支える呼び出し。決して主役として目立つわけではありませんが、呼び出しの**絶妙な間**はプロの技だと思いました。

今場所を最後に引退する立呼び出しの秀男さんに、横綱白鵬が感謝の花束を渡す場面がテレビに映し出されていたのも印象的でした。

私たち教職員も、子どもたちのパフォーマンスを最大限に引き出すように、さりげなく自然に、そして的確に支えていけるように**絶妙な間**を身につけたいものだと思います。

「間」という言葉で最近話題になっているのが、今の子どもたちに「時間、空間、仲間」の3つの間が不足しているということです。この3つについても、**絶妙な間**にしていくことが大切です。そのためには学校・家庭・地域が協力していくことが必要です。今後ともご協力をよろしくお願い致します。

学校・家庭・地域の3つも**絶妙な間**にしていきましょう。

ところで、22日に行われた障がい者の方々の「みなみスポーツレクリエーション大会」に、音楽クラブの子どもたちが参加しました。障がい者の方々に対して、とても自然にお手伝いし、合唱の発表を行いました。さすが中村小の子どもたちだと感心しました。

